

「メモリー・ボックス」

ケイティ・コール

ある年の春休みのことです。我が家は、5人の子どもたちが学校から持ち帰ったものでいっぱいでした。長男は中2（ホームスクーリング）、次男は小6、長女は小4、三男は小1、末の娘は幼稚園の年中さんを終えたところでした。

私は、居間に投げ込まれた勉強道具や工作などの山をどう整理しようかと困っていました。子どもたちが幼稚園や小学校に通う日々が続いた18年間は、学校で育てていた朝顔の鉢や日記、ピアノカ彫刻刀、ポスター、習字道具、体操着や給食着、などの果てしない整理を続けた年月でした。

●まずは作品を鑑賞する
学校からのお知らせや授業で作ったもの、そのほかの「宝もの」が家中を散らかさないようにするには、どうしたらいいのでしょうか。

まずすべきことは、時間をとって、子どもたちが持ち帰ったものを一緒に見てあげることでしょう。彼らの大切な作品ですから、鑑賞し、日記や作文を読み、点数を話し合い、無事終わった1年間に感謝する時を持ちましょう。

●さわるのは1度だけ

次は、何でしょう。「宝もの」をすぐテーブルの上か部屋の隅に山積みにしたりとすると、食事の時などに邪魔になり、何度も移動させることになってしまいます。少し時間がかかりますが、子どもたちと一緒に見ながら整理するのが一番効果的です。

私自身が子どもの時に受けたアドバイスは「さわるのは1度だけにする」というルールです。「これは、いつかファイルに入れなきゃ」とか、「片づける時間ができると、ここに置いておこう」などと言わずに、見終わったものはその場で処理しましょう。

19世紀半ばのアメリカで新婚の女性の間ではやったことわざがあります。

A place for everything, and everything in its place.

「すべてのものには、それにふさわしい置き場所がある」

出所は、昔の船員たちだと言われています。船の中で大勢と一緒に暮らすためには、一人一人の持ちものを整理する必要がありますでした。私たちの住まいもいつでも片づいていたほうが、温かく交わったりくつろいだりする空間ができるのです。

●子どもと相談しながら

さて具体的に、子どもが持ち帰った様々なものをどう処理するかです。その一つ

一つを見て、子どもと感動を分かち合いながら、最終的な行き先を考えましょう。来年も必要になる「紙類」があれば、子どもの名前を書いたフォルダーに入れ、見つけやすいような場所（たとえば電話か机のあたりなど）を決めてください。テスト、作文、日記などに関しては子どもと相談し、特に意味のあるものや思い出深いものを2、3選んで、その他は捨ててしまいます。学校でどこかへ出かけた思い出などもやはり、子どもと相談しながら保管すればいいと思います。

絵や工作も同じです。子どもと話し合いながら、彼らが特に取っておきたいものを選び、その他は捨てます。

大き過ぎるものやどうしたいか分からないものは、デジタルで写真を撮って捨てるようにすれば、「思い出」を失わずにすみます。写真なら後で簡単におじいちゃんやおばちゃんにも見せられます。

ここで必要なことは、実物を保管するにせよ、そのまま捨てるにせよ、写真を撮ってから捨てるにせよ、子どもの気持ちを大切にすることです。あなたにとってゴミにしか見えないものでも、時間をかけて一生懸命に取り組んだ子どもにとっては大きな意味があるかもしれません。場合によっては、今はとっておいて、もう数ヶ月後には子ども自身が捨ててもよいと言いかもしれません。

我が家の長男の場合は、何もかも捨ててしまう傾向があったので、私が毎年

2、3思い出になるものをもっておくようにしました。ついこの間、26歳になった長男にそれらを渡したら、とても喜んでくれました。

●思い出話のきっかけに

取っておくと決めたものについては、赤ちゃんの時から大きなプラスチックの収納ボックスを子どもたちに一つずつ用意し、大事なものを全部そこに保管しておきます。私たちはそれを「メモリーボックス」と呼んでいます。子どもたちにとっては自分たちのこれまでの人生の「存在感」を与える大切な箱です。

大人になって落ち着いた頃に渡すようにしています。長男の場合には彼が結婚した時に、お嫁さんと自分の子ども時代のことを分かち合うのにとっても役立ちました。きつと自分の子どもにも見せることでしょう。

子どもたちが育つ間にも、たまに持ち出してみんなで見るようにすると、思い出話のきっかけになります。

最近のことですが、家族で車に乗って3、4時間走らなくてはならなかった時に、三男の小学校時代の音楽会のCDを持っていきましました。子ども4人は全員高校生以上でしたが、大声で小学校の歌を歌いながら色々な思い出話で盛り上がり、時間があつという間にたちました。

(以下略)